

白川郷の合掌造り



第18号

平成28年3月31日

発行 (-) 世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3

昨年は、世界文化遺産登録二十周年、北陸新幹線開業、白山白川郷ホワイトロードへの愛称変更と料金半額など、白川村にとって大きな節目を迎えた年となりました。観光入込数では、円安・訪日ブームによるインバウンド・ツーリズムの効果により、昨年日本を訪れた外国人旅行者が千九百七十四万人と一昨年と比べ六百三十三万人の増加となりました。白川村においても台湾・中国・タイをはじめとするアジアからの旅行者が大きく増加し、国内含めた村全体の観光入込数は百七十三万人と一昨年の百五十万人から大きく増加しました。今年に入っ

荻町地区交通対策の歩み

白川村観光振興課長 岩本一也

でもその勢いは留まることなく、冬のライトアップは雪が少ない状況にも関わらず大混雑となり、「言葉が通じない」「マナーを知らない」外国人客の対応でスタッフが苦慮するなど課題が残る開催となりました。観光客が増加する一方で問題になるのが観光車両の増加です。荻町地区では世界遺産登録以降、GWやお盆、紅葉シーズンを中心に増加する観光車両の対策として、平成十三年の交通社会実験を皮切りに様々な交通対策を実施してきました。当時私は役場で企画担当の仕事をしていて関係でこの実験に関わり、その後、観光

担当となり平成十七年に設立した「荻町交通対策委員会」の事務局として長く関わらせていただいています。交通対策の歴史は、表に示すとおりですが、平成二十六年四月からの年間を通じた観光車両乗入制限の実施に至るまでには、なんと十三年という長い年月を要しました。当然、白川郷の世界遺産は、住民が生活している場所です。登録当時は集落内に車の乗り入れが可能であったわけですから、交通対策を進めるとなると様々な課題に直面し、委員会での課題を解決するための協議を重ねてきました。その詳細は省略しますが、観光車両を乗入制限することで、観光導線が大きく変わり、であい橋からの一極集中による旧荻町駐車場周辺や南側と北側の人通

りの減少など、観光客の分散化に向けた取り組みが必要となりました。

村及び合掌造り保存財団では、混雑期にみだしま公園臨時駐車場、寺尾臨時駐車場（シャトルバスは診療所へ）を活用し、観光車両の受入容量を強化することで、国道一五六号の渋滞緩和と観光客の分散化を行ってきました。併せて、来訪者の休憩・憩いの場が少なくという現状を踏まえ、旧荻

H13年	交通社会実験実施(年2日)・白川村交通対策委員会設置
H14年	交通対策の試行実施(年1日)
H17年	新交通システムの試行実施(年2日)・荻町交通対策委員会設置
H18年	新交通システムの試行実施(年8日 4月～11月第3日曜)
H19～24年	新交通システムの実施(4月～11月第3金土・荻町祭礼)
H21年4月～	荻町駐車場の大型バス廃止
H21年9月～	大型車両乗入規制の通年実施
H22年4月～	寺尾駐車場設置
H24年4月～	荻町駐車場廃止
H25年4月～	観光車両乗入制限試行(冬季を除く毎週末・行楽時期)
H26年4月～	観光車両乗入制限実施(通年)
H26～27年	旧荻町駐車場公園整備
H27～28年	旧診療所解体・荻町バスターミナル整備

町駐車場跡地の公園整備、隣接する旧観光案内所・旧藤坂家を休憩所として活用するための整備も行い今春から利用開始する予定です。更に、路線バスの便数と入込数も年々増加傾向にあり、現在白川郷（せせらぎ公園の路線バス発着場）には、毎日名古屋駅から二便、高山駅から十四便、金沢駅から十便、新高岡駅から六便、富山駅から四便 計三十六便の路線バスが往来し、昨年は約十九万



人の利用がありました。公共交通機関が少なかった村にとっては驚くべき状況であり、かつて「陸の孤島」と呼ばれた村が大変革しています。このため、村では荻町区からの要望もあり、老朽化した白川診療所を解体・移設し、跡地をバスターミナルにする計画を打ち出し、現在工事を進めています。これにより、世界遺産集落内の景観向上と交通安全、観光客の分散化を一層促進し、観光客の満足度の向上と平等性の確保が期待できます。

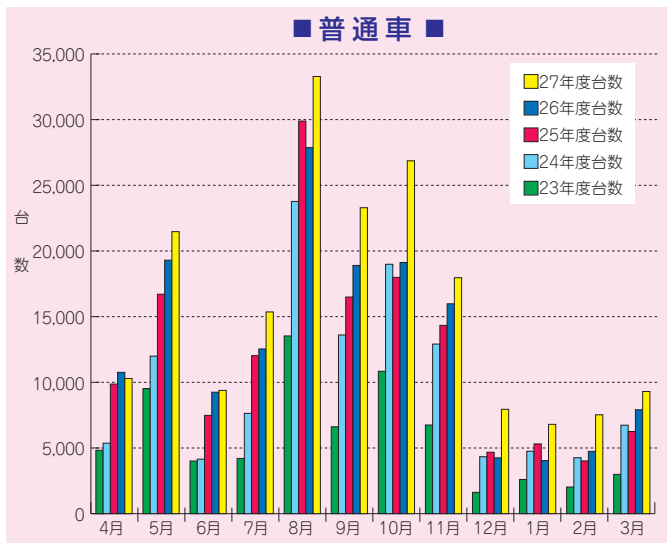
しかし、決してこれがゴールではありません。今後益々増えることが予想される外国人旅行者やそれに伴うレンタカーやタクシーの増加、更には住民・観光客の安全対策など、混雑期の国道の渋滞対策を含めた受け入れ態勢の促進、マイカーの公安規制の検討、経済効果の向上、白川村全体への分散化など課題も数多くありますし、新たな課題も出てくることでしょう。

私は、平成二十四年度から「荻町集落の自然環境を守る会」事務局として荻町集落の環境保全にも参画させていただき、毎月の定例会で現状変更の審議等を行っていました。が、住民の暮らしと集落景観・伝統文化を守ることに、そこに観光客を受け入れ商業活動を行いながら地域活性化に結び付けることは、相反することであり、「保存」と「観光」が共存共栄していくことの難しさを痛感しています。

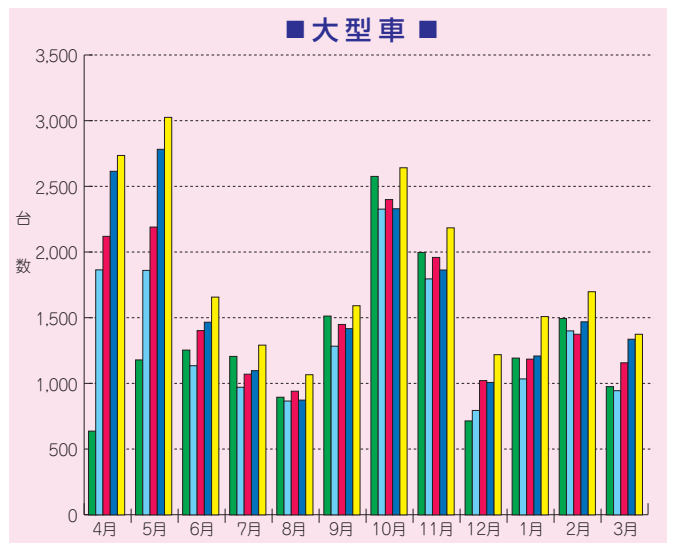
白川村は、これから益々人口減少・少子高齢化という厳しい時代を迎えます。国においても「地方創生」の実現に向けて様々な施策が打ち出されており、当課では、観光誘客による地域振興に加え、移住定住、空き家活用、起業家支援・企業誘致などにも力を入れ、村づくりに取り組んでいます。しかし「自分の地域は自分たちで守り育む」という住民皆様の行動も必要です。問題や課題を皆で話し合い、考え、行動できるように住民主体の村づくりについても努力していきたいと思っております。今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

平成23~27年度 白川村宮駐車場 月別入込み台数比較

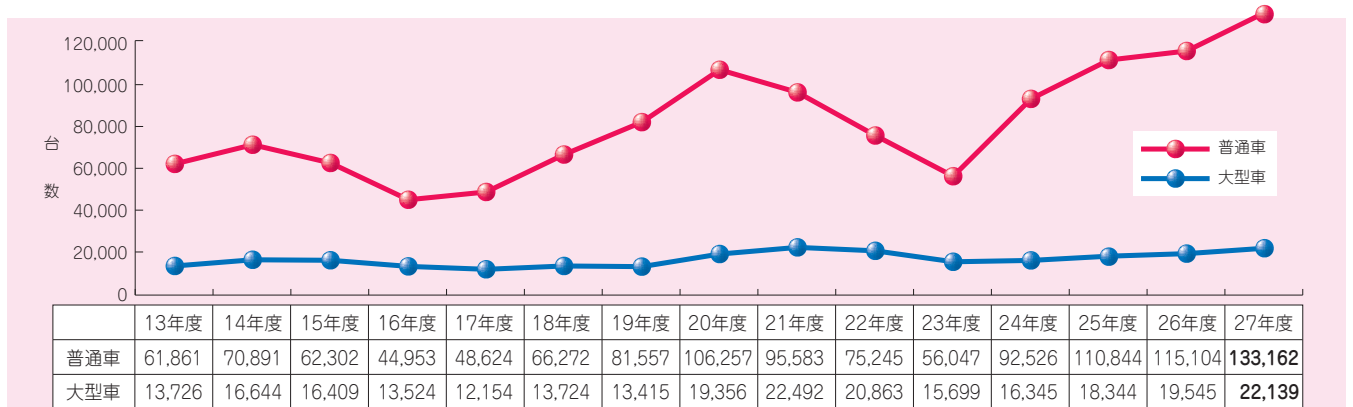
村宮駐車場(せせらぎ+みだしま+寺尾)月別入込普通車比較



村宮駐車場(せせらぎ)月別入込大型車比較



せせらぎ公園小呂駐車場 年度別入込み推移



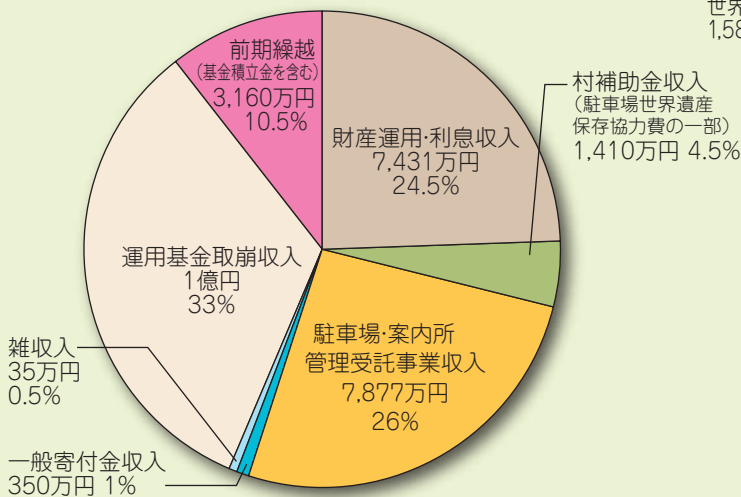
…一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団…

平成27年度

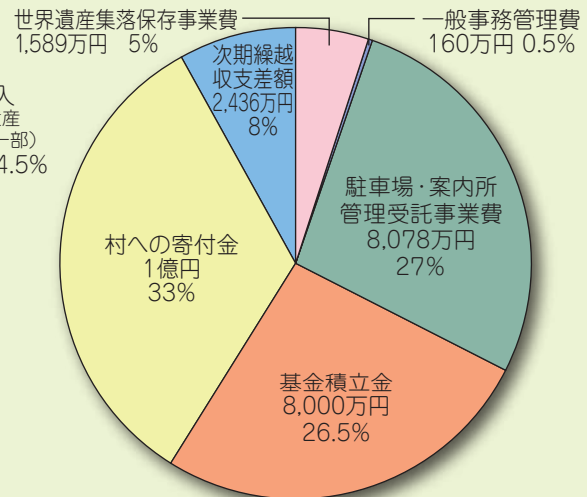
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成27年度の会計状況をお伝えします。

歳入 3億263万円



歳出 3億263万円



平成27年度の主な事業

1. 修理事業	3,430,000円
差し茅	8棟 529,000円
伝統的建造物修理	0円
棟茅葺替	79/108棟 2,834,000円
トタン屋根葺替	1棟 67,000円
2. 修景事業	3,442,098円
修景協力費助成	6棟 781,000円
トタン屋根葺替	4棟 1,515,000円
ビニールシート指定色奨励事業	111枚 1,027,330円
一般建築物茅屋根補修	3棟 76,000円
オダレ助成	6枚 42,768円
3. 地域活性化事業	1,895,841円
自治保存会活動費助成	1,000,000円
自治保存会育成事業	400,100円
人材育成事業	495,741円
4. 水田復旧事業	2,291,054円
復旧農地の維持管理・活用	水田63.10a, 畑0.7a 2,291,054円
合計	11,058,993円

財源内訳

村補助金	10,600,000円
基金運用利息	458,993円
合計	11,058,993円

当財団は設立当初からせせらぎ公園他村営駐車場と総合案内「であいの館」の指定管理業務を受託しており、これらの運営管理を行いながら、世界遺産集落を保全するための公益事業を行っております。職員の人件費等主な経費は受託費で賄われております。

せせらぎ駐車場では利用客から駐車場利用料(普通車300円・大型車2,000円)、世界遺産保存協力費(普通車200円・大型車1,000円)の二種類を徴収しています。これらの収入は一旦財団からすべて村に収められます。

そのうち駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、一部は駐車場・総合案内管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちらも一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは財団の主目的である世界遺産集落保存事業を遂行するための大切な収入源となっております。平成27年度のせせらぎ公園小呂駐車場の総収入は、駐車場利用料約8,243万円(986万円増)、世界遺産保存協力費約4,956万円(573万円増)となりました。同様に寺尾駐車場及びみだしま公園臨時駐車場で徴収された駐車場利用料2,916万円(923万円増)をあわせて村に納付させていただきました。そのうち駐車場、案内所管理受託事業費として8,200万円、集落整備事業及び運営費補助金として1,620万円を村からの収入とさせていただきます。

今年度財団では、寺尾地区にある世界遺産地区緩衝地帯に含まれる土地の購入代金の一部として白川村に1億円の寄附をさせていただきました。この土地は今後村が管理し、景観保全と茅場造成等に活用される予定です。財団が保有する基金は約6億7,330万円、平成27年度は7,431万円の財産運用・利息収入となりました。財団の貴重な自主財源として集落保存事業を中心に活用しています。

財団が保持している基金の現在額(平成28年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	370,943,298円
合計	673,304,298円

平成27年度 | 自治保存会育成事業

第37回 全国伝統的建造物群 保存地区協議会総会・研修

平成二十七年年度の自治保存会育成事業は、五月二十日～二十二日の日程で長野県東御市で開催された第三十七回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会住民プログラムに参加しました。参加者は事務局を含め八名、二泊三日の予定であったため参加者が例年になく少なく、残念でした。

一日目には総会および記念講演、情報交換会が行われ、二日目には東御市海野宿で現地視察研修、文化庁講演、意見交換会が行われました。三日目には国宝善光寺に参拝し、帰路を中山道、木曾路とし奈良井宿、妻籠宿、馬籠宿の伝建地区を巡る強行日程で日没まで研修を行いました。

研修の報告は、守る会（和田会長）で取り纏めていただいた参加者の感想を掲載させていただきます。



情報交換会



現地視察（海野宿）



滞在型交流施設「うんのわ」



住民意見交換会



奈良井宿



妻籠宿



馬籠宿



国宝 善光寺



妻籠宿を守る住民憲章

- ・全国各地から伝建地区の関係者が一同に交いする会は、初めて参加する私にとって圧巻であった。様々な方々と情報交換ができ有意義な時間であった。ただ、どうしても年配者の参加が多く、若い方々の参加が大事であると感じた。
- ・各地からの報告の中で、来年度開催地である加賀市のニートやひきこもりの参画を促す取り組みや雪に着目したビジネスが興味深かった。マイナスイメージをプラスに転じる取り組みを、来年度の研修でさらに学びたいと感じた。
- ・海野宿は通りに水が流れ、お店も少なく落ち着いたたすまいであった。住民の景観を守る熱意を感じた。周辺都市に職場があり、観光業で生活しなくても居住地として建物とその景観を守っていくことができるとのこと。ただ、居住者の高齢化や後継者育成は、課題として挙げられていた。
- ・海野宿が宿場町から養蚕振興の町へと移行していった過程が興味深かった。資料館にも養蚕関係の展示物があり、白川郷の養蚕を紹介する上でぜひ参考にしたい。
- ・海野宿の散策では、地元小学生ガイドによる説明があった。地域を知り
- ・地域を愛し誇りとするとても素晴らしい取り組みであると感じた。白川の小中学校でもぜひ!!。
- ・住民分科会では、どの地区も景観保全に誇りと熱意をもって取り組んでいることが伝わってきた。同時に白川郷の様子について意見を求められることが多々あった。伝建地区から世界遺産となった白川郷は、良きにせよ悪しきにせよ、たえず注目されている。伝建地区のフロンティア的な存在としての重責を感じた。自信と誇りをもって取り組みたい。
- ・研修を通して4つの宿場町を視察。どの街道も美しく保存されていた。妻籠宿の観光案内所入口には「売らない・貸さない・壊さない」の看板が掲示されていた。お店の外への物品陳列は一切なし。白川も学びたい。
- ・素晴らしい研修を企画くださった合掌財団に心より感謝。次回はさらに若い方々や女性陣、観光業に従事されている方々に多く参加いただけたらと感じた。
- ・善光寺は御開帳の時期で大変な賑わいであった。参道のお店は、新しいものと古いものがうまく交わっていた。新しいものがあることで、古いものの良さが引き立っていた。

荻町集落の景観保全 ～水田復旧事業～

●田植え体験●

5月28日、白川小学校5年生と本巣郡北方南小学校5年生の交流学习があり、休耕田にて田植え体験を行いました。



●さつまいも畑●

10月20日、白川小学校2年生の児童がさつまいも掘り作業を行いました。6月には児童で苗植えも行っています。この畑は集落内の景観保全を目的に休耕田を利用して作っており、児童たちは職員から景観を守る大切さを学んだあと、一斉に芋掘りを行いました。



12月にはさつまいもパーティーに招待され、子供達と一緒にゲームをしたり、さつまいもで作ったお菓子を美味しくいただきました。



●水田協力隊●



今年も財団の田植えや稲刈りを手伝ってくれた小学生・中学生の皆さん、ありがとうございました。

財団が所有する休耕田は機械が入らない所が多くとても大変ですが、職員と一緒に頑張ってくれた皆さんのおかげで、とても助かりました。

これからも水田協力隊として、お手伝いをよろしくお願ひします！



**昔ながらの景色を子供たちに残せるよう、
今後も景観保全に取り組んで行きます！**

人材育成事業

●田づくり●

財団では人材育成の一つとして、白川小学校の田づくりに関わる肥料や苗の他、畑作りやプランター栽培に必要な種や苗の助成を行っています。

5年生の田づくりでは、財団職員が田植え・稲刈り・脱穀の指導をしながら子供達と一緒に作業を行いました。



12月には収穫したお米での親子おもちつきに招待され、子供達と一緒についたお餅を美味しくいただきました。



●地域学習●

10月23日、白川小学校2年生の児童が財団職員の仕事を見学に訪れました。児童は事務所や駐車場でどのような仕事をしているのかなど質問し、熱心に聞き取りをしていました。



11月11日には下目事務局長が授業に参加し、財団の仕事内容などの説明をしました。



今後も次世代の遺産保存のための人づくりにつながるよう、積極的に教育活動を行っていきます！

財団では世界遺産の景観保全を目的に休耕田の復旧や維持管理を行っています。

今年も収穫したお米の一部を皆さんに味わって頂きたいと各代表へ手渡しました。



今年も集落内で作った新米を「瀬音さくら山荘・しゃくなげ荘」へ「村学校給食センター」へ寄贈しました。

ありがとうございます

募金ご協力者一覧 (敬称略)

平成27年度

- | | | | |
|------|-------------------|------|--------------------------|
| 千葉県 | イオンリテール(株) | 岐阜県 | 早川美和子 |
| 埼玉県 | 細谷 恵子 | 〃 | (有)高山観光写真サービス |
| 東京都 | (株)ジオコード | 〃 | (株)飛騨企画販売 |
| 〃 | 平川 悦子 | 〃 | 小島 邦彦 |
| 神奈川県 | 古谷 義幸 | 〃 | (株)三輪酒造 |
| 〃 | 小野 剛 | 〃 | 三輪 研二 |
| 〃 | 北村 秀雄 | 白川村 | 戸川 洋治 |
| 〃 | 桐山 次郎 | 〃 | 白川郷荻町集落の
自然環境を守る会 |
| 愛知県 | 森 顕敏 | 滋賀県 | (株)文教スタジオ
代表取締役 一円 泰成 |
| 〃 | 伊藤 睦子 | 三重県 | 紺谷 圭子 |
| 〃 | KDDI(株) 安田 憲央 | 大阪府 | 高島 明德 |
| 〃 | 北條 正典(平和荘) | 和歌山県 | 石田 真紀 |
| 〃 | 大森 國雄 | 兵庫県 | 西本 照也 |
| 〃 | 北名 古屋市
社会福祉協議会 | 山口県 | 藤井 律子 |
| 岐阜県 | 五味 裕子 | | |

竹筒募金

国重文 和田家/ふる郷 長瀬家/神田家/明善寺郷土館/民宿 十右エ門/民宿 きどや/民宿 ふるさと/民宿 久松/民宿 利兵衛/民宿 幸エ門/民宿 与四郎/民宿 源作/民宿 大田屋/民宿 よきち/民宿 伊三郎/民宿 のだにや/民宿 孫右エ門/民宿 志みづ/民宿 かんじゃ/トヨタ白川郷自然学校/民宿 一茶/民宿 わだや/旅館 城山館/民宿 やまもと/土産 こびき屋/土産 おけさ/土産 山楽堂/土産 佐藤民芸品店/土産 しゃくなげ/土産 山里/土産 一飛/土産 今藤商店/土産 白楽/土産 山峡の家/食事 基太の庄/見学合掌造り民家園/土産 古太神/食事 合掌 森崎/焰仁美術館/土産 元気な野菜館/団子 いさなみ/食事 喫茶狩人/土産 恵びすや/土産 おいしんぼ/食事 喫茶今昔/白川郷の湯/食事 いろいろ/団子 ちとせ/たなか屋/土産 ぜん助/食事 手打ちそば処 乃むら/喫茶 さとう/あらい食堂/食事 味処ゆきんこ/鳩谷郵便局/土産 道の駅白川郷/いっぷく ちな/食事 白水園/食事 飛騨路/盛善/食事 ます園文助/土産 めめんこ/城山 天守閣/お食事処 忠兵衛/食事 しらおぎ/喫茶 鄙/デイリーヤマザキ白川郷店/総合案内での館

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

基金に対するご寄付お送り先及び資料請求先	振替による場合 ・郵便振替口座 00810-6-51954 ・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800	現金書留による場合及び資料請求先 〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3 (-財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団 TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113 ☆インターネットでも受け付けています。 http://shirakawa-go.org/kikin.html
-----------------------------	---	--

編集後記

今回、岩本一也白川村観光振興課長に執筆頂いた巻頭記事にもあるとおり、白川郷を訪れる観光客数は右肩上がりに増加しております。住民と行政が切磋琢磨してこれだけの観光地に育て上げたことは大変誇らしいことです。ただ交通状況の改善を含めた観光対策の充実、受け入れる側だけでなく観光客にとってこそ大切である、この仕事を通じてひしひしと感じます。お客様があまりの混雑に、早々に立ち去る姿にも何度も立ち会いました。多くの人々に白川郷を知っていただくきっかけを失っているのではないかと、このまま立ち去りたくない思いが強く残るのには驚沢でしょうか。

自治保存会育成事業で旧中山道の宿場町である奈良井・妻籠・馬籠宿を足早ながら訪問させていただきましたが、観光地であることを表に出さない落ち着いた佇まいは貫禄を感じさせ、このまま立ち去りたくない思いでした。

勿論、隣の芝生を褒めるだけではいけません。白川郷の良さを受け止めてくださる方も多く見えます。その中には、毎年合掌集落保存基金に募金して下さる方もいらっしゃいます。ミカンや写真パネルを添えて頂くこともあります。こうした方々の思いを、切れさせないよう、またどうしたら白川郷の良さを発信できるのか、研究を重ねたいと思います。

